

第5回久慈市沖浮体式洋上風力発電検討委員会 議事概要

日 時：令和4年11月14日（月） 14:00～15:30

場 所：久慈市役所 3階 大会議室及び ZOOMWEB 会議室

出席委員：北澤委員長，田中委員，伊藤委員，佐々木委員^{*}，川戸道委員（代理：村上氏）二子委員，吉田委員，兼田委員（代理：山口氏）^{*}，山王委員，横内委員^{*}，佐藤委員^{*}，高橋委員^{*}，阿部委員^{*}，和村委員（代理：本間氏），工藤委員，東山委員^{*}，小笠原委員，桑田委員，嵯峨委員，久松委員，谷崎委員（代理：清水頭氏），大崎委員 ^{*}は ZOOMWEB 参加者

1. 主な議事

【議事1】 第4回検討委員会の振り返り

【議事2】 今年度の進捗状況

【議事3】 今後の予定

【議事4】 その他

2. 主な意見等

【議事1 関係】

特になし

【議事2 関係】

- ・音の影響について、風向が変わった場合に浮体が動くと考えている。それに伴い係留索がずれした場合の音の影響は検討しているか。
→係留系と底質との摩擦により生じる音の影響は、検討の対象にしていない。風や波により起きる摩擦音はあまり想定できず、通常の世界で起こりうる現象の範囲に収まる。知見はないと考えるが、引き続き情報収集に努め順応的な対応をしていく。
- ・漁業団体との協議の場で、根拠をもって説明できるようにして欲しい。
- ・リアルタイム情報提供について、沖合漁業者向けとあるがここにある波高や水温状況というものは沿岸漁業者にとっても重要な情報となる。沿岸漁業者への提供は可能か。
→リアルタイム情報提供は、希望があれば沿岸漁業者に提供を行う。
- ・ヤリイカの産卵礁について、岩手県の大船渡地区でヤリイカの産卵礁を設置したところ実際に産卵をした事例がある。参考とされたい。
- ・コミュニケーションについて、沿岸漁業者に対しては事業後の監視やメンテナンスなどで協調策はとりやすいと思う。しかし沖合漁業者の活用は難しい。魚礁は沖合の漁業者には邪魔になる、といった意見がある場合は、生産量が増えるような策を考える、沖合で風車の近くのみに魚礁を置くのではなく漁業者が利用しやすいような魚礁を設置する、といった検討をするとよ

いと考える。

→検討していく。

- ・航行安全調査について、時間によって航行量の濃淡があるか。

→時間によって違いはある。今回資料では年間で集約して何隻かを示しているが、最終的な報告書で詳しく整理を行う。

- ・夜間に漁業を行う漁業者もいるため時間帯が重要になる。時間帯別の解析をお願いしたい。

- ・付着生物調査について、本事業の中で事前に検討をした上で「実施目的」にあるような課題が出たのか。それについて検証はされたのか。

→当初、本事業で付着生物は検討する予定はなかった。しかし、事業性を検討するうえで事業者にはヒアリングを行ったなかで知見が欲しいという話があったことから、調査を検討していたところ、良い機会があり実施することができた。どのように事業性に影響があるのかについては、情報収集を行い検証したい。

- ・引き続きの情報収集をお願いしたい。

- ・漁港漁場漁村総合研究所の事業で浮魚礁の検討を行っており、そのなかで付着生物量も調べている。参考とされたい。

- ・係留系や送電線といった問題も今後あるため、引き続き検討をお願いしたい。

- ・事業性の検証について、ケース想定は事業性を検討するうえでのひとつの過程として設定しているものであり、事業者がこれに縛られるものではない、ということでよいか。具体的には、漁業者との協調策を考えるうえでTLP形式は有力な候補になってくると考えている。TLP形式についても想定されるケースとして今後検討される予定はあるのか。

→あくまで現段階の一般的な設定として考えるものとして例示したものである。事業性検討あるいはCO₂削減効果の検証を来年度さらに検討していく前段階として今回整理している。最新の技術・動向については、事業者やメーカーにヒアリングを行うなど、引き続き最新の動向を収集する。TLPのメリットは当該海域に関しては魅力的なものと認識しており、あらゆる可能性のひとつとして考えている。

- ・対外的に説明する場合は、想定されるケースに限らない旨、示して欲しい。

- ・漁業影響調査の一環にあるスルメイカの水中音調査について、バックグラウンドとして久慈の海域での騒音は把握しているのか。

→当該海域の水中音は環境省が調査を行っており、情報提供を依頼するよう考えている。

- ・漁業協調策として、水中の対策と陸上での対策の両方が考えられるとよい。水揚げ後の陸での販売なども把握して検討してもらいたい。

→流通の状況などは専門の方にヒアリングするなど可能な範囲で把握したい。

・地消について、久慈地域だけでは需要量が少ないのであれば、地域エネルギーを窓口に拡大させていくことは重要ではないか。RE100 など再エネ電力を積極的に活用していく可能性も検討して欲しい。

→事業が拡大すれば市内では使いきれない部分もあるため、横浜市との連携を深めることなど、検討を進めていきたい。

・アセス図書作成について、市が中心になってミニセントラルアセスを進めることも考えられるのではないか。

→今後も情報を集めていく。ご助言いただきながら検討したい。

・民間共同調査で行っている洋上風況観測のデータは、この先の事業を検討する重要なデータとなるが、国・県・市が出資していないデータであり、本事業で取扱いできるのか。

→風況についてはあくまで民間共同調査のコンソーシアムのデータであるため利用はできないが、コンソーシアムの協力が可能であれば依頼したいと考えている。

【議事 3 関係】

特になし

【その他】

特になし

以上